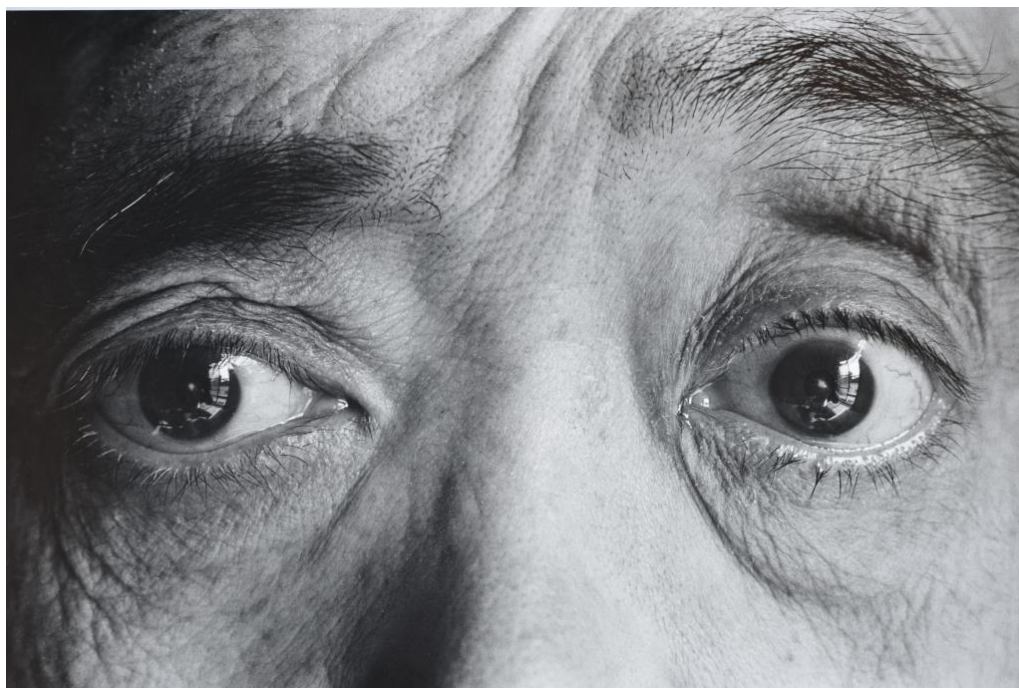


Yes Peace! 世界ヒバクシャ展戦後70周年特別企画

写真家、森下一徹が語る 広島、長崎の被爆者たち



被爆者：富永初子
瞳の中の斑点は、原爆白内障である。体内を、常に激痛が走る。それに耐えてきたために苦痛のあまり、左右の眉毛の位置がずれてしまった。
撮影・森下一徹

10月25日(日) 午後4時～8時

会場 シェア奥沢(世田谷区) ※裏面に地図

参加費 1500円(軽食付)

プログラム

16:00～16:20 世界ヒバクシャ展写真紹介映像
「広島、長崎、…そして福島」上映

16:20～17:50 トーク「被爆者と歩んだ半世紀」
写真家 森下一徹(NPO法人世界ヒバクシャ展顧問)

18:00～20:00 交流会
※NPO法人世界ヒバクシャ展代表の森下美歩が新しい
取り組み Yes Peace! を紹介します。

申し込み 参加される方は、事前に下記までお申し込みください。

メール hibakushaten@gmail.com 電話 080-3558-3369(安在)

ヒバクシャの思いを世界へ

ほぼ半世紀前に、広島、長崎の被爆者を撮り始めた写真家、森下一徹。ピカドン(原爆)を思い出すフラッシュを一切たかずに撮影するなど、その心に寄り添った長い付き合いの中から、力強く生きる被爆者の写真の数々は生まれました。戦後・被爆70周年の今、被写体となった被爆者のドラマや撮影にまつわるエピソードなどを語ります。

また、森下一徹は、世界中のヒバクシャを撮り続けてきた写真家仲間に声をかけて、1999年から世界のヒバクシャの写真展を始めました。「ヒバクシャの思いを世界へ」という世界ヒバクシャ展を生み出したその思いもお聞きいただけます。

2002年に設立されたNPO法人世界ヒバクシャ展は、この写真展を2020年までに世界100カ国で開催することを目指しています。

その流れの中から、新しい平和のムーブメントを起こし、平和や核への関心を高め、核のない世界の実現につなげようと、Yes Peace!(平和に賛成!)というプロジェクトを始めています。

交流会では、森下一徹の長女で世界ヒバクシャ展の活動を引き継いだ森下美歩がこのプロジェクトについてお話しします。

